

講義名	消費文化論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	森脇 丈子		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 5時限		
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2014年度 サービス産業学部 観光学科 / 2014年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2014年度 商学部 商学科 / 2013年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2013年度 サービス産業学部 観光学科 / 2013年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2013年度 商学部 商学科 / 2012年度 サービス産業学部 サービスマネジメント		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		講義コード	15008

主題と概要

資本主義の発展は、私たちに「豊か」で「便利な」生活をもたらしました。ものを所有するだけの「豊かさ」を超えて、余暇の有意義な使い方や精神的なゆとりの持ち方、現代の「豊かさ」とは何かといった面に高い関心が寄せられています。その一方で、便利なはずの情報が多すぎることで疲れてしまう人がいたり、生活が便利になりすぎること疑問を感じる人がいたり、環境破壊に関する国際的議論が活発になったりもしています。

この授業では、現代の生活の仕方がどのように経済されてきたのかについて学びながら、私たちの生活のあり方の特徴ならびに問題点や課題がどこにあるか、生活の「豊かさ」や「便利さ」とはいったいどういうことであるかについて考えていきます。

毎回の授業で、受講生との議論をおこないます。

到達目標

1. 消費社会の基礎である大量生産・大量消費・大量廃棄の仕組みを理解します。
2. 社会の発展のなかで、消費文化がどのようにみ出されるかについて理解します。
3. 「便利な生活」がもたらす正と負の側面について考えます。
4. 「賢い消費者」とは何かについて考えます。

提出課題

なし。

なお、授業中に宿題をししばし出します。次週の授業までに準備しておいてください。口頭での発言を求めます。

評価の基準

授業での発言（30点）、定期試験（70点）による合計100点の総合評価をおこないます。

なお、履修者数によって、評価の基準を修正する場合があります。

履修にあたっての注意・助言他

毎回の授業で学生に質問を出します。発言に参加できるようにしてください。

新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や企業活動などに関する情報を日々収集しておいてください。

第1回目の授業ガイダンスに必ず出席し、授業中の約束事をしっかりと理解したうえで、受講してください。

授業中の私語やスマホの利用は禁止します。受講態度の悪い人には退席を求めることがあります。

関連科目として、「消費者問題論」、「アミューズメント事業論」、「生活構造論」、「NPO論」、「経済学入門」の受講を勧めます。

教科書

・「使用しない」。

プリント資料及び参考文献

授業の出席者には、プリントを配布します。

・和田英樹『テレビの大罪』2010年
 ・新潮社。竹村民郎『大正文化 帝国のコートピア』2004年、三元社
 ・山田登世子『贅沢の条件』2009年、岩波新書。
 ・伏木亨『人間は脳で食べている』、2005年、ちくま新書。
 その他の参考文献は、授業中に適宜紹介します。

授業計画

- 1 授業の内容紹介と授業の進め方について、「消費社会」の便利さについて考える
- 2 資本主義の発展と商品生活領域のひろがり
- 3 資本主義の発展と生活の「豊かさ」
- 4 小売業の発達と生活様式の成立：19世紀のアメリカ社会を例に
- 5 小売業の発達と生活様式の変化：20世紀のアメリカ社会を例に
- 6 世界初の百貨店ボン・マルシェの登場(1)：売り方の改革、消費者層の広がり
- 7 世界初の百貨店ボン・マルシェの登場(2)：社員教育
- 8 日本の百貨店の登場と消費階層の広がり
- 9 大正時代の神戸経済の発展と消費文化
- 10 日本における戦後の生活の変遷(1)：農村型から都市型社会へ、生活の「豊かさ」
- 11 日本における戦後の生活の変遷(2)：余暇社会、消費の多様化、「贅沢」
- 12 高度経済成長期の「便利な」生活と消費の変化
- 13 広告の役割と企業活動
- 14 消費社会の諸問題：大量廃棄システムと環境問題
- 15 まとめ

予習・復習

毎回の講義終了時に、次回の範囲とそれに関連する予習項目を提示します。

また、その日の授業で扱った内容を基にして、次週の授業開始時に復習問題を提示します。口頭で答えられるよう準備しておいてください。

備考

授業中の私語、スマホの利用、教室への勝手な出入りは禁止します。

授業態度の悪い人には教室から退室してもらうことがあります。